



平成27年 5月22日 NO・27

〒311-1114 水戸市塩崎町1016  
 TEL029-269-2116 FAX029-269-3160  
 Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp  
 【ホームページで、カラー版が見られます】

# 「群れ」ではなく、「集団」を目指す

## 生徒諸君へ

左の記事は、平成二十年四月十七日(木)の私が校長をしていた茨城町立桜丘中学校(現・青葉中)で発行した生徒指導だよりの記事です。当時、桜丘中生徒指導主事の稲野辺先生という方が発行担当をしていました。読みづらくて申し訳ありませんが、一読してみてください。

自分の学校を自分で評価するの

はルール違反かも知れませんが、桜丘中は「生徒主体の学校運営が、実現された学校だった」と、当時を振り返って感じています。

生徒たちが、生徒会を中心として自分たちの生活の在り方を検討し、生活の充実を図ることができていました。それに伴い、学力の充実もみられた学校でした。

さて、生徒の皆さん、昨日(21日)は、生徒会総会が盛会のうち

に終了したとのこと、おめでとうございます。(東京出張のため私自身は参加できず残念です。)

その中で、生徒会の本年度のキャッチフレーズが、「生徒の生徒による生徒のための生徒会」が主役の学校を」と決まったと聞きました。

すばらしいキャッチフレーズだと感じています。学校の主役は、皆さんです。ぜひ、皆さんが主役として輝く常澄中学校を実現してほしいと願っています。

います。ところで、主役とは何でしょう。何を、どうすれば主役となれるのでしょうか。生徒の皆さんには、是非ともこの点を考えてみてほしいと願います。主役となる第一歩は、「自ら考える」「群れではなく、自分たち自身の集団を創り上げる」こと、『自分たちのルールを真剣に創り上げる』ことにあると思います。皆さんの『集団づくり』を教師集団も応援します。

新年度が始まって、10日が過ぎました。そろそろ学級・学校生活にも慣れてきたところで、桜丘中生として、生活のきまりについて考えていきたいと思っています。この「きまり」については、「きまりだから守らなければいけない」と単純に考えるのではなく、そのきまりとは何かについて考えてみたいと思います。1年生から3年生までが読むので、下級生には若干難しい部分があるかと思いますが、みなさん自身でよく考えてください。

### 群れと集団

サルから人へ



集団の成立

上の図を見てください。サルが進化して人となったというのは、現代の生物学では定説となっています。その過程の中で、一人よりは複数で何かをやるほうが能率的だということを学習してきました。さらに複数で何かをやるときは役割分担をするときによりよいということも学習して来ました。これが人類の進化です。

そうした中で、「小さな集団」を構成するときは、モラルが生まれました。そのモラルがあることによって集団の秩序が保たれたのです。しかし、小さな集団が大きくなると、モラルだけではまともにくなくなりました。そこで、「約束事」が生まれたのです。この約束事は、文字を持たない時代は、口頭で伝えられました。これを不文律といいます。しかし、集団がより大きくなり、この不文律が徹底されなくなったこと、文字を考え出した人類は今までの不文律を「規則」としてまとめ、徹底するようになりました。すなわち、規則とは「人類の進化の過程の中で生み出されてきたもの」と考えられます。ですから、ただ人がたくさん集まっているだけの状態は、「集団」ではなく「群れ」ということになります。「集団」構成しているからには、そこにモラルやルールが存在するわけです。そして、そのモラルやルールがあるから人間らしく生きていけるのです。また、生活にもハリが出てくるのです。そして、そのような状態になれば「集団の質の高まり」が見られるのです。

なるほど、「規則」ができた理由は分かった。でも、次にどうしてこんなに規則があるのだろうか? 「廊下を走ってはいけません」「スカートを短くしてはいけません」「髪型をきちんとしましょう」「名刺をつけましょう」「授業中勝手に席を変えてはいけません」

うーん、うるさい! わたしはこうしたいんだからいいじゃないか!

このように考える人は、少なからずいるはずですが、

それに対して、一般論はこのように答えるでしょう。

「もし、規則がなかったら、みんな勝手なことをして収集がつかなくなるよ、集団生活が成り立たなくなってしまうでしょう。」

これは正論だし、その通りだと思います。でも、納得できない部分ってありますよね。

でも、ここでは、さらにもう一步自分自身に踏み込んで考えてみよう。

例えば「私は染めたいんだ、そのほうが格好いいんだ」と考える人。

なぜ、私はおしゃれに関心があるのだろうか? なぜ髪を染めたいのだろうか? というように自分の関心・動機や目的を冷静に分析してみよう。

そうすると、カッコよく見られたいという思いが出てくるはずだ。

そして、なぜカッコよく見られたいのかを考えるんだ。

すると、人に評価されたい(認めてもらいたい)という思いが出てくる。

さらに、なぜ評価されたいのか。と考える。

すると、そうしないと自分に自信がもてない。ことに気づくんじゃないかな。

というふうに、「なぜ」という言葉をつかって自分に問いかけていくと、自分の関心や本当にしたいことが見えてくるんじゃないかなと思います。

そして最後には、自分は本当はどのように生きたいのかが見えてくるんじゃないかな。と思うのです。

そうすると、髪を染めたいというのは、本当は自分が本当にやりたかったことじゃなかったなと気づくかもしれません。

「何いってんだかわからない。」という人は、

最後、「正しい」とは何かを考えてください。集団のきまりの原点は「よりよい生活」のほうです。

ですから、どのような生活が中学生として正しいのか。その判断を身につけるのも学校生活の中では、大切なことです。

### ちょっと興味関心を引く記事がありました。

成績を上げるために規則を守れと言いたいのではないです。なぜ、規則を守る生徒は高い正答率を示すのかについて、ちょっと考えたいと思います。おそらく、規則を守る子は、

- 1 普段の話をきちんと聞くことができる子
  - 2 約束を守ることにに対して理解し、がまんのできる子
- であると考えられます。すると、当然授業中の話の聴き方、姿勢にも影響が出てくるのではないかと考えられます。規則を守れない子は、普段から先生の話を「何いってんだ。」という気持ちで聞きますから、学力が上がらないのも当然といったところでしょうか。

みなさんは、この記事をもどのように考えますか?

### 規則守る子 高い正答率 文部科学白書 学力テスト分析

文部科学省は、毎日全科目をテストし、学校の授業の学力テストの結果や学力を測定する生徒の学力が、習得率の安定性を、正答率が高い傾向との関係について、分析も示した。白書の中で、改正された教育基本法や学校教育法(旧教育基本法)の施行、昨年、四十三年度の学力テストの分析も示した。